

学校の教育目標		
・日本国憲法 ・教育基本法、学校教育法等 ・小学校学習指導要領 ・東京都・多摩市教育委員会の教育目標と方針	◎考える子 ○助け合う子 ○元氣な子 《具体的な子ども像》 ・意欲的に学び、よく考え、自信をもって考えを表現できる子ども ・しっかり話を聴く、最後まで聴く、規律正しく整然とした態度で学習する子ども	・子ども、学校・地域の実態 ・時代や社会の要請 ・教育課題 ・教師の願い ・保護者・地域の願い
道徳教育の目標		
学校経営の充実	(総則第1の2)《抜粋》 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養う。	各教科における道徳教育
学年・学級経営の充実	学校の道徳教育の目標	国語
・学年、学級目標の設定 ・共に学ぶ安心感 ・受容と共感のある学級経営 ・互いに高め合う関係の構築	・各教科、総合的な学習の時間等の学習活動との関連を図りながら、意図的かつ計画的な授業を実施し、人間としての生き方の基礎となる道徳性を高める。 ・自他の人格の尊重を基にして、自分の生き方を深く見つめさせることを通して、道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高める。 ・校内だけでなく積極的に地域の人との関わり合いを進め、併せて、体験的な活動を推進する中で道徳実践力を養う。 ・全ての学年で、「生命の尊さ」「規則の尊重」「いじめ防止にむけて」を重点に指導し、「考え、議論する道徳」の具現化に向けた指導の工夫及び学習評価を踏まえた授業改革を行う。	社会
家庭と地域の連携	特別な教科 道徳の時間	算数
・道徳教育の趣旨理解の促進 ・道徳授業地区公開講座の充実 ・地域人材との連携 ・PTCA、青少協等の地域行事への参加 ・中学校との連携	指導内容の重点 〈共通〉 ・自立心や自他の生命を尊重する態度(生命の尊さD-17.18.19) ・生命尊重の精神と人権感覚(いじめ防止にむけて) ・生活習慣、社会生活上、集団や社会のきまり、情報モラル、法やきまりの理解(規則の尊重C-10.11.12) 〈低学年〉 ・他者を思いやり、親切にすること ・思いやりのある行動が選択できるための判断力(親切、思いやりB-6) 〈中学年〉 ・自分の考えを伝え、相手の思いを理解しようとする実践意欲と態度(相互理解、寛容B-10) 〈高学年〉 ・自分の意見を伝えると共に、広い心で相手の立場も尊重して支え合う態度(相互理解、寛容B-11)	理科
生活指導における道徳教育	各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深め、道徳実践力を育成する。教科書を活用して、生き方の基礎となる道徳性を高めていく。評価では、「多面的・多角的な見方へと発展しているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」を重視していく。	生活
環境整備	特色ある教育活動	音楽
・清潔で安全な施設、設備 ・信頼に支えられた人的環境	・異年齢の友達や保護者・地域支援者等との交流活動を通して互いの理解を深め、相手への配慮や思いやり、協力や感謝の気持ちを高める。 ・国際交流を実施し、外国の人々や文化に対する関心を高める。 ・学校と保護者が連携した「ノーテレビ・ノーゲーム・ノーネット」の取り組みを進め、家族の一員として家族の役に立つ喜びを知る。 ・検定教科書を使用し、道徳的価値の理解を基にワークシートへの記入内容や授業中の発言等を評価する。 ・国や都の教材等を活用し、資料を導入や終末に読んだり、学習した内容項目の振り返りとして記入したりする。	図工
校内研修・教材管理		家庭
・年間を通じた校内研修の充実 ・情報提供の工夫 ・教材資料、指導方法の共有化と管理		体育
		総合
		外国語
		特別活動